

# 安保法案の強行採決に対する抗議声明

2015年9月29日 全農協労連青年部

9月19日、安倍政権は通常国会で安保法案を採決しました。

これは、与党招致の参考人からも法案の問題点を指摘され、世論調査で国民の6割以上が「今国会での成立に反対」とし、全国各地で反対運動が展開されるなかでの採決であり、安倍首相みずからも「国民の理解は進んでいない」と言わざるを得ない状況でした。

昨年の総選挙で有権者の17%の得票を得て議席の多数を得た政権が、6割を超える世論に反して強行採決を行ったことに、私たちは厳しく抗議します。

他方、安保法案をめぐる一連の動きのなかで、若い世代を中心に民主主義とは何かを問う声と行動が巻き起こりました。

民主主義とは何か。問われているのは、国会での審議時間よりも、賛成議員の数よりも、私たち一人ひとりの行動ではないでしょうか。

いま、選挙の投票率の低さに象徴されるように、とりわけ若い世代には政治に対する大きな不信感が渦巻いています。しかし、今回の問題を通じて、社会に関心を持ち、具体的なアクションを起こしていく気運が高まっています。

全農協労連青年部は全国の仲間とともに、職場の内外の課題に対して声を上げ、改めて民主主義を行動に示していく決意です。

以上